



小型種。成熟したオスは第一背ビレの軟条が伸長する。坂井市三国町産 全長:約5cmの成魚

ハゼ科 アベハゼ属

【標準全長】5cm

アベハゼ

学名: *Mugilogobius abei*

分布域

新潟県・宮城県以南の本州・
四国・九州に分布する。

生息域

汽水域の泥底部に生息する。



かなり汚染された場所にも生息できる。

頭部は丸く眼は左右に離れる。体の前半は横帯、後半は縦帯の独特な模様。オスの成魚は第1背鰭の軟条が糸状に伸長する。汚染に大変強くヘドロなどの堆積した臭気を放つような場所にも生息する。尿素を合成する特異な機能を有するそうです。食性は雑食性で飼育下では配合飼料や冷凍赤虫をよく食べる。産卵期は春～夏とされる。産卵生態など不明ことが多い。単独で生息するのか、見つかっても1～2匹である。

水槽での飼育は可能。飼育水は10%程度の汽水～真水を用い餌は冷凍赤虫や配合飼料に慣れる。比較的丈夫で飼育し易い。

※県内での生息数は少なく、既知される生息地でも出会える機会は少ない。

在来種

汽水魚

※ 生息地・生息数とも多くない。6～7月頃、汽水と淡水の境界付近の田圃の排水路などで、幼魚が視られるが、その後は比較的視られない。産卵場所なのか？出会える機会の少ない種。